

② ガサガサ「水生生物の観察」

1 子どもたちに伝えたいこと

- ・川に入って魚やヤゴなどを捕まえて、水の中の生き物に親しむ。
- ・川や用水の水環境が改善され、いろいろな生物がすめるようになった事を知ってもらう。

2 実施時期：5月～10月中旬頃（7月～8月は暑いのでできれば避ける）

3 実施場所：野外（浅川、多摩川、用水など）

4 対象学年：全学年

5 関連教科：総合、生活科、理科

6 時数：2時限～3時限

7 事前準備

- ・河川管理者への申請（必要な場合）
- ・フィールドの下見（川の水量など）
- ・川に入る時の服装（長袖・長ズボン・帽子、着替えのズボン・靴）などの準備の指導
- ・班分け
- ・水生生物の図鑑などの資料の作成・印刷



<フナ>

8 当日

(1) 準備する材料や道具

学校：印刷した資料、魚捕りの網、水槽、ビニール袋、エリア規制用のロープ（必要に応じて）

どんぐりクラブ：魚捕りの網、観察ケース・バット、魚の図鑑、ボランティア袋（ゴミ拾い用）



<ガサガサ>

(2) 授業の流れ

① あいさつ

② 川に入る時の注意

- ・魚捕りで入っていい範囲を確認。
- ・深いところには、絶対に行かない。
- ・川の中には、藻などが生えており、滑りやすいので注意する。

③ 生き物の捕り方・川岸の草の生えている所を、足でガサガサして追い出すと捕れる。

- ・水の中の石を剥ぐと、そこに生き物が隠れている。

④ ガサガサ（水生生物の捕獲）

- ・班に分かれ、捕れた生物を容器やビニール袋に入れる。
- ・どんぐりクラブの人は、見守ったり、捕り方の相談にのったり、手伝いをする。

⑤ まとめ

- ・捕った生き物は、グループごと、またはクラスごとに観察ケース・バットに集める。
- ・捕った数や名前の分かるものは、記録する（事前または後日資料によって、きれいな水・きたない水にすむ生き物を調べて、川の環境を知る）。

⑥ 終わりのあいさつ、放流（捕った生き物はもとの川に逃がす）



<水生昆虫>

9 備考

- ・ひのどんぐりクラブ HP で事前・事後に川の生物について調べるとよい。
- ・移動や川の活動のため、保護者などの応援があるとよい。
- ・特定外来生物についての話をする。